

2月20日

社会人になる前に消費生活学ぶ 法テラス弁護士が第高3年生に講話



消費生活の基礎知識についての講話が2月20日、弟子屈高校(宮嶋衛次校長)で行われました。

今春、社会へと巣立つ3年生を対象に行われたものです。日本司法支援センター釧路地方事務所(法テラス釧路)所属の阿相裕隆弁護士が「契約の意味と消費者について」と題して講話を行いました。法テラスとは、法的トラブル解決を支援するため、国によって設立された法務省所管の公的法人です。身近な事例を用いた説明に、生徒は熱心に聴き入っていました。

カメラスケッチ



このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐかけつけます。お気軽にご連絡ください。



まちづくり政策課政策調整係 ☎482-2913(課直通)

3月10日

チャリティーバザーで被災地のあしなが育英会へ寄付 ちいむら東日本大震災復興支援day



ちいむら主催の「東日本大震災復興支援day」が3月10日、川湯駅前交流センターで行われました。

さまざまな品が並んだバザー。ガーデンレストランなどを営む川湯ビレッジ内で、語学スクール「ちいむら」を営む池上圭子さんが、11日で震災から2年を迎えることから川湯駅前自治会などと連携して初めて企画したチャリティーバザー。地域の方などが訪れ、出品された品を手にした。スタッフと交流したりしました。出品された品は、町内はもとより、全国各地から寄せられたものです。収益金は被災地のあしなが育英会に全額寄附されました。

3月16日

川湯の森に親しんだ1年を振り返る 小・中学生向け体験活動「もりのパレット探検隊」



町内の小・中学生を対象とした、川湯エココミュニティセンター主催の自然体験活動「もりのパレット探検隊」第6

回が3月16日、小学生26人が参加して行われました。「ほんとは身近な川湯の森」を年間テーマに掲げ、季節や内容を変えて実施された6回シリーズも、この日が最終回。写真を見ながら、過去5回で体験した著作や草木染め、ヤマブドウジャムや飾り炭を作った活動などを振り返りました。参加した子どもたちは、森を歩いてみた様子やそのときに接した植物の感触、におい、味などを懐かしそうに思い出していました。

2月26日

思いやりの心と優しい心を大切に 昭栄小学校で人権教室



釧路人権擁護委員協議会主催の人権教室が2月26日、昭栄小学校(奥田泰朗校長)で開催されました。同校では4年ぶりの開催です。

講師に東北海道子どもの人権専門委員の石川征支朗さん、畠山典子さん、弟子屈町人権擁護委員の朝日英明さんを迎え、同協議会が作製した人権かるたを楽しみながら、人権と思いやりの心、優しい心の大切さについて学びました。

子どもの人権教室は、いじめなどの問題が深刻化する中、全国的な広がりを見せていて、釧路管内では全ての市町村で開催されています。

3月12日

新たな旅立ちを祝福 自衛隊入隊予定者の激励会



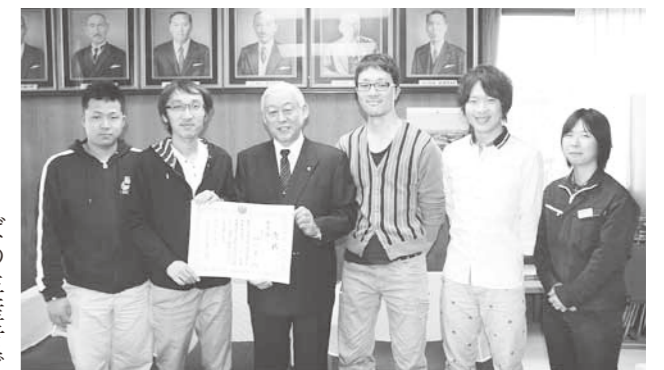
町自衛隊協力会(八幡豊行会長)と町自衛隊父兄会(岩崎忠夫会長)主催の弟子屈町自衛隊入隊予定者激励会が3月12日、役場委

員会室で開催されました。

今年は、弟子屈高校を卒業した三谷守道君が入隊を予定しています。八幡会長のあいさつ、徳永町長や自衛隊関係者の激励の後、岩崎自衛隊父兄会長から記念品が手渡されました。三谷君は「弟子屈で育ったことを誇りに、立派な社会人となるよう頑張りたい」と、決意も新たに語りました。

郷司さんが全国で優秀賞

第52回全国青年農業者会議



喜びの報告を行う郷司さん(左から2人目)

2月28日から3月1日にかけて東京都で開かれた第52回全国青年農業者会議で、弟子屈町4日クラブの郷司幸広さんが、プロジェクト発表(土地利用型作物部門)で優秀賞の農林水産経営局長賞を受賞しました。弟子屈町4日クラブは、農業青年で構成する団体。郷司さんは摩周そばの生産者で、同クラブ員と協力しながら、ソバの最適な収穫時期の算出方法を研究してきました。その結果、摩周そば独特の青みと香りを両立する収穫期は、積算温度1千200〜1千400度が目安と分析。この研究結果を、1月に札幌市で行われた道青年農業者会議で発表し、プロジェクト発

告され、収穫期の目安として採用されることになったとのこと。郷司さんは「優秀賞は4日クラブで受賞したもので、うれしく思っている。今後も、摩周そばの魅力を高める努力を続けていきたい」と話していました。

町の話題



町の話題

読み聞かせ続けて22年

絵本の会「おはなしはらっぱ」が1,000回突破



記念すべき1,000回目の読み聞かせに聴き入る子どもたち

読み聞かせ、町が行う9・10カ月児相談での赤ちゃんへの読み聞かせなどを行っています。また近年では、古本市を開催して収益金で児童書を図書館に寄贈したり、図書館の図書整理のボランティアを行うなど、活動内容が地域貢献へと拡大。これらの活動が評価され、2001年には道読書推進運動協議会表彰を、2009年には全国優良読書グループ表彰を受けています。

絵本の会「おはなしはらっぱ」(笹島久美代表の皆さんが、毎週土曜日に図書館で開催している絵本の読み聞かせ会が、1千回を突破しました。記念すべき1千回目の読み聞かせ会は3月9日。この日は「おはなしはらっぱ1千回記念お楽しみ会」として、くす玉を割ってのお祝いスタートしました。お楽しみ会では、通常の読み聞かせに加えて大型絵本や紙芝居の読み聞かせを行ったほか、カードとスタンプを使った指遊びを集まった子どもたちと一緒に楽しみました。同会は1991(平成3)年7月設立。子どもたちに絵本の素晴らしさや楽しさを伝えたいと、保育士や教師、主婦などの皆さんが集まって結成されました。図書館での読み聞かせのほか、小学校を訪問しての読み聞かせ、町が行う9・10カ月児相談での赤ちゃんへの読み聞かせなどを行っています。また近年では、古本市を開催して収益金で児童書を図書館に寄贈したり、図書館の図書整理のボランティアを行うなど、活動内容が地域貢献へと拡大。これらの活動が評価され、2001年には道読書推進運動協議会表彰を、2009年には全国優良読書グループ表彰を受けています。